

向田邦子文庫コレクション



スタジオからきた 本物のシナリオ展



2004年11月8日～（年内の予定）

<シナリオの原点～ラジオの時代～>

森繁の重役読本 第1回・2・4・4・8(最終)回 ほか

TBS(東京放送)、MBS(毎日放送)、文化放送

昭和37年(1962)3月5日～44年(1969)12月27日

脚本:向田邦子 連続ラジオエッセイ:森繁久彌

日曜を除く毎朝5分間(放送局と時間に移動はあったが)、2448回も続いた。展示のシナリオは、森繁久彌氏からの寄託資料であり、森繁氏の書き込みもある。

重役と婦人、重役と社員など、その会話のやりとりが非常に愉快。放送作家としての本格的デビュー作である。シナリオライター、エッセイスト、作家へと続く執筆活動の原点となった。

参考

「森繁の重役読本」向田邦子著 ネスコ 1991.7 請求記号: 914.6::Mu27

「六つの引き出し - 森繁の重役読本より-」 ネスコ 1993.10 請求記号: 914.6::Mu27

<ヒット作品の中から～テレビの時代～>

七人の孫 [1] 第6回「無断駐車おことわり」

TBS 昭和39年(1964)2月10日～7月6日 pm 8:00～8:56

原作:源氏鶏太 脚本:向田邦子 演出:山本和夫

明治生まれの気骨ある祖父(森繁久彌)と孫たちを中心に、様々な事件が巻き起こる、ほのぼのホームドラマ。森繁久彌が初出演したこのドラマでピンチライターが必要になり、「森繁の重役読本」で向田邦子の才能をかってきた森繁久彌が彼女を紹介。翌年の[2]では、第3・6・10・17・19・24・30・36回を担当。



イヤデスさん 第1・3・5回

毎日放送 昭和44年(1969)11月4日～12月30日 pm 10:00～11:00

原作:里見弴『釜芋さん』 全脚本:向田邦子 演出:瀬木宏康

全8回当館所蔵。 版画以外に何もわからない男やもめの巨匠(池部良)の元に、未亡人が内弟子として住み込む、というライトコメディ。池部良の書き込み有り。

時間ですよ・昭和元年 第15・16回

TBS 昭和49年(1974)10月16日～50年(1975)4月9日 pm 9:00～9:55

脚本:向田邦子 演出:久世光彦

全26回のうち向田担当は13回(1～3, 9, 11～13, 15～16, 18, 21, 23, 25)。
当館所蔵は15・16・21・23回。昭和初期の東京で銭湯を営むある家族の物語。

寺内貫太郎一家 2 第17・18・22回

TBS 昭和50年(1975)4月16日～11月5日 pm 9:00～9:55

原作/脚本:向田邦子 演出:久世光彦ほか

全30回、向田担当は1～29回。当館の所蔵は17・18・22回。
東京谷中の石屋を舞台に、昔気質で怒りっぽいが涙もろい「日本の父」貫太郎(小林亜星)と、その家族が織りなす下町人情コメディ。雷おやじは向田邦子の父親がモデル。「寺内貫太郎一家1」では昭和49年度テレビ大賞受賞作品。
最終回脚本は、向田邦子が乳癌の宣告を受けた直後のため、向田の頼みで久世氏が担当した。

参考

『寺内貫太郎一家』向田邦子著 新潮社 1983.1 請求記号:913.6::Mu27

冬の運動会 第1～2回

TBS 昭和52年(1977)1月27日～3月31日 pm 10:00～10:55

全脚本:向田邦子 演出:服部晴治

全10回当館所蔵。
高校時代の万引きがもとで、父に疎んじられる青年(根津甚八)。彼は靴屋の家に入りびたりになる。厳格な青年の祖父がコッソリ愛人をつくっていたストーリーは、後年の「阿修羅のごとく」につながっていく。
来年1月4日には、3時間ドラマにリメイクされて(脚本:田淵久美子 演出:水田伸生)放送予定。日本テレビ午後9時から。

参考 『冬の運動会(向田邦子作品集3)』大和書房 1982.5 請求記号:912.7::Mu27::3



隣の女 ～現代西鶴物語～

TBS 昭和56年(1981)5月1日 pm 10:00～11:55

脚本:向田邦子 演出:浅生憲章

ミシン掛けの内職をする平凡な人妻(桃井かおり)が、隣の女(浅丘ルリ子)と男(根津甚八)の会話を壁越しに盗み聞きしたことから、奔放な世界に踏み込む。1981年度芸術祭優秀賞受賞作品。

今年8月に舞台化された(脚本:宮川一郎 演出:鴨下信一)。

参考

『隣の女』向田邦子著 文藝春秋 1981.10 請求記号:913.6::Mu27

阿修羅のごとく

パート 第1回「女正月」 第2回「三度豆」 パート 第1回「花いくさ」

NHK パート 昭和54年(1979)1月13日～27日 全3回 pm 8:00～9:10

NHK パート 昭和55年(1980)1月19日～2月9日 全4回 pm 8:00～9:10

全脚本:向田邦子 演出:和田勉

現物の所蔵は展示の3冊のみで、入手まもない貴重な資料。

4人姉妹の老いた父親に愛人がいることが発覚し一大事。女性の笑顔の下に潜む修羅像を描いた、向田邦子の傑作。

幾度も再放送された人気ドラマで、ケーブルテレビ(一部地域)でも今年10月～11月上旬に再放送されたばかりである。昨年11月には映画化(脚本:筒井ともみ 監督:森田芳光)、また今年7～8月に舞台化されるなど(脚本:小池倫代 演出:西川信廣)、息の長い名作である。

参考

『阿修羅のごとく(向田邦子TV作品集1)』大和書房 1981.12 請求記号:912.7::Mu27

思い出トランプ

第1回「花の名前」 第2回「犬小屋」 第3回「だらだら坂」

第4回「かわうそ」 第5回「男眉」

NHK 昭和59年(1984)8月27日～31日 pm 9:40～10:00

5夜連続放送 原作・脚本:向田邦子 演出:田中賢二

同名短編小説中の、「花の名前」「犬小屋」「かわうそ」は第83回直木賞受賞作品。

ドラマは小説13編のうち5編をとりあげたもの。

参考

『思い出トランプ』新潮社 1980.12 請求記号:913.6::Mu27



思い出トランプ 前編・後編

「大根の月」「男眉」「だらだら坂」より

TBS 昭和平成2年(1990)9月21日 pm 10:00~10:54

脚本:寺内小春 演出:久世光彦

向田邦子直木賞十周年記念ドラマ。

誤って息子にけがをさせたことで夫婦仲がこわれ、息子の傷の治療をした医師と深い仲になる。

朗読ドラマ 男どき 女どき

NHK 昭和60年(1985)8月5日~8日 pm 9:10~10:30

連続4回 原作:向田邦子 構成:内館牧子

男どき 女どき

TBS 昭和63年(1988)1月6日 pm 8:00~9:48

原案:向田邦子「男どき 女どき」「眠る盃」などより 脚本:寺内小春 演出:久世光彦

大戦前の平和な時代から戦争突入直前までのある家庭が舞台。何をやってもうまくいかない哀しい女が昭和を背景に力強く生きていく。

参考 『男どき 女どき』向田邦子著 新潮社 請求記号:913.6||Mu27

父の詫び状

NHK 昭和61年(1986)11月1日 pm 9:00~10:30

原作:向田邦子「父の詫び状」 脚本:ジェームズ 三木 演出:深町幸男

向田邦子初のエッセイ「父の詫び状」をドラマ化したもの。

いつも子どもを怒鳴り威張っている父(杉浦直樹)、行き届いた母、父と祖母との確執、昭和の家庭が懐かしく描写されている。

平成5年(1993)には舞台化もされた(脚本:金子成人 演出:深町幸男)。

参考 『父の詫び状』文藝春秋 1981.10 請求記号:914.6||Mu27

向田邦子の恋文

TBS 平成16年(2004)1月2日 pm 9:00~11:04

原作:向田和子(向田邦子の妹) 脚本:大石静 演出:久世光彦

向田邦子が妻子ある男性との間に交わした手紙を中心に、妹・和子の目を通した2人の恋模様と家族の物語。

参考 『向田邦子の恋文』向田和子著 新潮社 2002.11 請求記号:910.268||Mu27M